

倶生神（くしょうじん）

221108 村松

小平イーグルスの表彰状紹介

若林校長先生は、朝から5年生と自動車工場の見学に行っているのです、私が代わりに話します。

私が子どもの頃、母親から聞かされたお話を、わかりやすくみんなに紹介しましょう。

実はみんなが生まれてきたときからずっと、二人の神様がその人の両肩に乗っかっているんだそうですよ。私の肩にも乗っています。二人も乗っていたら重そうだけれども、神様だから重みを感じませんし、見えませんね。その神様の名前は、倶生神（くしょうじん）といいます（紙をホワイトボードに貼る）。自分と**倶**（とも）に**生**きている**神**様ということです。

この神様、その人が悪いことをすると、天にのぼって行って、そこにいる「えんま様」に報告に行きます。また、善いことをしたときもちろん、えんま様に報告に行きます。その人がした善いこと、悪いことをすべて報告するのです。倶生神は二人いるので、一人が報告に行っているときも、もう一人が必ずその人のことを見ているのです。そうそう、えんま様というのは、人が死んでから、地獄に行くか、極楽に行くかを決める神様のことです。少しこわい神様ですが、みんな知ってますよね。

ところで、善いことをしても人に自慢したりすると、悪いこととして報告されてしまいます。友達に親切にしてあげた、友達にやさしいあたたかい言葉をかけてあげた、人の見ていないところでも掃除をがんばったなどなど、あまり自慢してはいけないんだね。

また、悪いことをしても、すぐに正直に自分から言ったら、善いことの一つとして報告されるのだそうです。ですから、悪いことをしてしまったら、すぐに、正直に言うことが大事なんですよ。

だれも見ていないと思っても、二人の神様が必ず見ているのです。悪いことも善いこともすべて見ています。そのことを忘れずに、みなさんは善いことをたくさんしてってくださいね。

きょうは倶生神のお話でした。終わります。

（裏面に「先生方へ」があります）

<先生方へ>

1年間に1回くらいは、東洋的な仏教説話を取り上げたいと思っています。それは最近、自分たちの価値観が、西洋的なものに支配されている気がしているからです。これは私だけの感覚でしょうか。先生方は、どう感じていますか。

きょうお話しした「俱生神」は、人が生まれるときに俱(とも)に生じ、常にその人の両肩にあって、その人の善悪の行動をしるして閻魔王(えんまおう)に報告するという同名(どうみょう)、同生(どうしょう)の二神のことを指します。同生神とも言います。経によっては俱生神(くしょうじん)を一人といい、男女の二人にするなど一様ではありません。

さて、人が誰も見ていないところでその人の行いのすべてを観察している存在がある、ということ子どもたちは早く知らなくてはなりません。私たち大人は、それを「良心」と呼びますが、それがないと、弱い人間は自分を支えきることができないからです。小さな子どもに「良心」と言ってもピンときませんから、それで「俱生神」の話ができたのでしよう。

私は担任をしているとき、特に高学年に対しては「善いことをしても、それを自慢するようなことをすると、悪行として記録されてしまいます。同様に悪いことをしたとき、進んで告白すれば善行として残ります。だから、善いことをしたときには自慢して人に言うてはいけないし、悪いことをしたら、できるだけ早く正直に話し、自分のしたことを償わなくてはなりません。」と話してきました。

各学年の実態に合わせて、補足などしておいていただけると助かります。

<資料 11月豆知識>

日本の旧暦では11月を霜月(しもつき)と言います。霜のおりる月という意味のようです。英語ではNovember(ノーベンバー)、「9番目の月」という意味です。古代ローマの暦では3月が最初の月ですので、11月は9番目にあたります。ちなみに2月は古代ローマ暦で最終月になりますので、1年の端数の28日・29日がここに集められ、調整されます。

11月15日は七五三。この行事の歴史は意外に浅く17世紀後半に群馬県館林から始まったというのが定説のようです。男の子は3歳と5歳、女の子は3歳と7歳の年に、神社等にお参りして健康と成長を祝います。ただし地域によっては3歳の男児を祝わないところもあり、これは医療技術の不十分な当時においてより病気に弱い男の子は、5歳にならないと生きていく見通しがつかなかったからと言われてしています。